

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,  
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第155号 会 報 1996年 11月20日

## 目 次

第19期学会役員選挙広報 .....	1	長谷川・永田賞を受賞して .....	10
第100回総会・講演会報告 .....	4	国際学術交流事業補助金受領者の報告 .....	10
会長挨拶 .....	5	学校科目「地学」関連学会連絡協議会報告とSGEPSS での取り組みについて .....	12
第187回運営委員会報告 .....	6	人事公募 .....	13
フォーラム 地球・惑星圏研究のフロンティア-21世紀の SGEPSS展望-ホームページ上討論について .....	7	研究助成金案内 .....	14
大林奨励賞審査報告 .....	8	SGEPSS Calendar .....	15
大林奨励賞内規の改定 .....	9	第101回総会並びに講演会開催のお知らせ(第8回地 球惑星科学関連合同大会).....	16
平成8年度大林奨励賞の候補者推薦のお願い .....	9		
SGEPSSロゴ図案の応募作品と審査結果 .....	9		

## 第19期学会役員選挙広報

第19期(1997-1998年度)地球電磁気・地球惑星圏学会役員選挙を下記の通り施行いたします。投票に当たっては本会報中の学会規約、および内規の抜粋、現役員名を含む過去8期間の歴代役員一覧、および添付の本学会正会員の名簿をご覧ください。本学会役員選挙内規に基づき評議員および運営委員として立候補された方々は後記役員立候補者一覧の通りです。前回同様、会長1名と評議員9名、運営委員14名の連記による投票となります。被選挙権は立候補者だけでなく正会員全員にありますので、立候補者名簿を参考に、会員名簿を参照の上、地域、分野、機関等のバランスを配慮した新規役員の選出をお願い致します。

### 記

投票要項	会長および評議員候補者はピンク色の投票用紙に、運営委員候補者名は緑色の投票用紙に記入し、2種の投票用紙を共に同封の小封筒に入れ、返信用封筒を用いて郵送して下さい(切手の貼付は不要です)。
投票締切り	1996年12月25日受取分まで
郵送先	〒113東京都文京区本駒込 5丁目16番9号学会センターC21 (財)日本学会事務センター内 地球電磁気・地球惑星圏学会宛



合同大会の予稿申込は固有セッションについては裏表紙を共通セッションについては同封の連絡会ニュースをご参照ください。

## 第 19 期学会役員立候補者一覧

### A. 評議員立候補者 (4名)

氏名	年齢	勤務先	研究分野	推薦者
荒木 徹	58	京都大学大学院 理学研究科	磁気圏物理学	菊池 崇 奥澤隆志
小川利紘	56	東京大学大学院 理学系研究科	大気物理化学	近藤 豊 深尾昌一郎
鶴田浩一郎	58	宇宙科学研究	地球・惑星磁気圏	松本 紘 寺沢敏夫
松本 紘	53	京都大学・超高層 電波研究センター	宇宙プラズマ物理学 計算機実験、衛星観測	向井利典 湯元清文

### B. 運営委員立候補者 (16名)

氏名	年齢	勤務先	研究分野	推薦者
家森俊彦	44	京都大学理学部	磁気圏物理学	恩藤忠典 荒木 徹
糸長雅弘	43	九州大学工学部	磁気圏物理学 ULF波動	荒木 徹 田中高史
岩上直幹	46	東京大学大学院 理学系研究科	熱圏大気微量成分の観測	小川利紘 寺沢敏夫
大村善治	39	京都大学・超高層 電波研究センター	宇宙プラズマ計算機実験	國分 征 湯元清文
小野高幸	46	東北大学大学院 理学研究科	宇宙プラズマ物理学	國分 征 湯元清文
笹井洋一	56	東京大学地震研究所	固体地球電磁気学 (地殻活動電磁気学)	國分 征 湯元清文
高橋主衛	43	名古屋大学太陽 地球環境研究所	磁気圏ULF波動	小川忠彦 荻野竜樹
田中良和	53	京都大学理学部 地球物理研究施設	火山電磁気学	大志万直人 笹井洋一
津田敏隆	44	京都大学・超高層 電波研究センター	中層大気力学 地球大気計測	藤 豊 深尾昌一郎
早川 基	40	宇宙科学研究所	地球・惑星磁気圏	國分 征 湯元清文
星野真弘	38	宇宙科学研究所	地球・惑星磁気圏	早川 基 山本達人
三宅 互	38	郵政省通信総合研究所	磁気圏プラズマ物理学	田中高史 菊池 崇
湯元清文	45	九州大学理学部	地上観測網を用いた STP研究	大家 寛 森岡 昭
横山由紀子	34	職業能力開発大学校 情報工学科	固体地球電磁気学 (地磁気永年変化)	國分 征 湯元清文
渡部重十	42	東北大学大学院 理学研究科	惑星大気圏・電離圏 相互作用	福西 浩 森岡 昭
渡邊 堯	55	茨城大学理学部	太陽、太陽風	大家 寛 森岡 昭

## 歴代役員一覧

第11期 1981-1982	第12期 1983-1984	第13期 1985-1986	第14期 1987-1988	第15期 1989-1990	第16期 1991-1992	第17期 1993-1994	第18期 1995-1996
会長							
平尾邦雄	小口 高	小嶋 稔	木村磐根	行武 毅	西田篤弘	大家 寛	國分 征
評議員							
大林辰蔵	大林辰蔵	大林辰蔵	大家 寛	大家 寛	大家 寛	小嶋 稔	大家 寛
小嶋 稔	小嶋 稔	大家 寛	小嶋 稔	小嶋 稔	小嶋 稔	恩藤忠典	小嶋 稔
加藤 進	加藤 進	小口 高	加藤 進	恩藤忠典	恩藤忠典	河野 長	木村磐根
上山 弘	上山 弘	加藤 進	杉浦正久	加藤 進	加藤 進	國分 征	河野 長
長島一男	平尾邦雄	上山 弘	中沢 清	木村磐根	木村磐根	木村磐根	鶴田浩一郎
永田 武	広野求和	西田篤弘	西田篤弘	西田篤弘	河野 長	西田篤弘	西田篤弘
広野求和	福島 直	平尾邦雄	松浦延夫	平澤威男	平澤威男	平澤威男	平澤威男
福島 直	前田 坦	福島 直	安川克己	広岡公夫	広岡公夫	松浦延夫	松浦延夫
前田 坦	行武 毅	行武 毅	行武 毅	森 覚	安川克己	山越和雄	松本 紘
力武常次	力武常次	力武常次	若井 登	安川克己	行武 毅	行武 毅	行武 毅
運営委員							
荒木 徹	飯島 健	荒木 徹	乙藤洋一郎	乙藤洋一郎	小川忠彦	大志万直人	大志万直人
小川利紘	大家 寛	飯島 健	河野 長	小山孝一郎	乙藤洋一郎	乙藤洋一郎	大村善治
恩藤忠典	小川利紘	伊勢崎修弘	近藤 豊	近藤 豊	佐藤夏雄	小島正宜	小野高幸
上出洋介	恩藤忠典	河野 長	住友則彦	佐藤夏雄	寺沢敏夫	渋谷秀敏	笹井洋一
河島信樹	國分 征	國分 征	田中義人	寺沢敏夫	鳥居雅之	田中高史	佐藤夏雄
北村泰一	佐藤哲也	住友則彦	鶴田浩一郎	鳥居雅之	長野 勇	寺沢敏夫	渋谷秀敏
河野 長	住友則彦	鶴田浩一郎	鳥居雅之	西田泰典	西谷忠師	鳥居雅之	田中高史
小林和男	鶴田浩一郎	新妻信明	深尾昌一郎	西谷忠師	浜野洋三	浜野洋三	早川 基
斎藤尚生	広岡公夫	浜野洋三	福西 浩	浜野洋三	林 幹治	兵頭政幸	兵頭政幸
佐藤哲也	福西 浩	広岡公夫	本蔵義守	林 幹治	深尾昌一郎	深尾昌一郎	三浦 彰
鶴田浩一郎	本蔵義守	福西 浩	松本 紘	深尾昌一郎	福西 浩	三浦 彰	森岡 昭
新妻信明	松本 紘	本蔵義守	向井利典	福西 浩	本蔵義守	森岡 昭	山本達人
平澤威男	丸橋克英	松本 紘	柳澤正久	本蔵義守	前沢 冽	山本達人	湯元清文
本蔵義守	安川克己	丸橋克英	山越和雄	丸橋克英	町田 忍	湯元清文	横山由紀子
松本 紘							
安川克己							

### <<参考資料>>選挙関連規約および内規抜粋

#### 地球電磁気・地球惑星圏学会規約

#### 第3章 役員

第8条 本会に次の役員を置く。

会長1名、評議員10名、運営委員14名。  
ただし、同一人が2つ以上の役員を兼ねることはできない。

第9条 会長、評議員、運営委員は内規の定めるところに従って正会員の互選によって決める。ただし、会長は無投票で次期評議員と

なる。

第10条 会長は本会を代表し会務を総括する。ただし会長に事故のある時は内規の定めるところに従って会長代理を置く。

第11条 評議員は評議員会を構成し、第20条に定める会務を行なう。

第12条 運営委員は運営委員会を構成し、第21条に定める会務を行なう。

第13条 役員任期は2年とする。会長は重任する

ことはできない。役員に欠員を生じた時は、内規で定める次点者で補い、補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。役員はその任期満了後でも後任者が就任するまでその職務を行なう。

第14条 本会の事務を処理するため会員多数の研究機関には連絡員を置くことができる。連絡員は会員の中から会長が本人の承諾を得て委嘱する。

#### 地球電磁気・地球惑星圏学会内規

第2条 役員選挙は次の通りとする。

1. 会長の選出は単記無記名投票で行なう。ただし最高得票者が2名以上ある場合には最年長者が会長に就任する。
2. 評議員の選出は9名連記無記名投票を行ない、得票数の順位に従って上位9名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。
3. 運営委員については下記の様式にしたがい14名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位14名を選出する。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。

主として地球外部物理学を研究するもの

3名  
主として地球内部物理学を研究するもの  
3名  
東北・北海道地区に在住するもの  
1名  
関東地区に在住するもの  
4名  
中部地区に在住するもの  
1名  
関西以西地区に在住するもの  
2名

ただし同一人を評議員と運営委員に重複して記載してもさしつかえない。なお、3期連続運営委員経験者は次期の運営委員として選ばれても辞退することができ、通算5期経験者は再任を永久に辞退することができる。これらの氏名は選挙に先立ち全会員に通知する。

4. 正会員は2名以上の他の正会員により推薦された場合、評議員または運営委員に立候補することができる。この場合学会は選挙広報に立候補者の氏名、勤務先、研究分野、推薦者名などを掲載し、投票に際しての参考資料とする。
5. 前項の選出において、もし同一人が2種以上の役員に当選した場合は、本人の意志によりその一つを選ばなければならない。
6. 前項のために定数に欠員が生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。

## 第100回総会・講演会報告

第100回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会は1996年10月21日（月）より24日（木）の四日間、郵政省通信総合研究所のお世話で府中市民会館（23日以外）及び通信総合研究所（23日のみ）において開催された。第100回の記念すべき総会ということで学会の歴史を振り返り、未来を展望する場が提供された。まず、第1日目には「フォーラム、地球・惑星研究のフロンティア—21世紀のSGEPSS展望—」が森岡昭会員と横山由紀子会員が中心となって企画され、若手、中堅の会員多数が各々の分野の現状認識と将来について語り、活発な議論がなされた。また第3日目の特別講演会では力武常次、平尾邦雄の両名誉会員の学会の歴史を振り返るお話し、永野宏会員による学会誕生前史に関する講演があった。

会期は天候にも恵まれ、気持ちの良い気候の中で300を越える講演がおこなわれた。100回記念

特別講演会にあわせて、地球電磁気学の歴史、学会の講演数の変遷等のポスターもあった。

総会は、議長として指名を受けた渋谷運営委員によって別記のように議事の進行がはかられた。学会ロゴマークの議事では活発な議論の後、渡辺修会員の作品が本学会のホームページを飾るデザインとして使用することが賛成多数で可決された。次に、秋本俊一、柿沼隆清、加藤進、上山弘、乗富一雄、平尾邦雄、広野求和、前田担、米沢利之、の9名の会員の名誉会員への推薦が運営委員会から行われ、承認された。大林奨励賞内規は字句の改善であった。合同欧文誌については、現在までの経緯を踏まえてワーキンググループ及び会長が合同誌実現へ向けて進めることが承認された。次期講演会（合同学会）については準備状況が大志万運営委員より報告され、次々期開催地に関しては北海道大学でお世話頂こう住友会員より提案があり、快諾された。

（庶務担当運営委員）

## 会長挨拶

会長 國分 征

本日の特別講演会においては、力武、平尾先生により、学界創立時からその後の発展にかかわる研究分野の発展についての興味深いお話を伺いました。また、永野会員からは、初代委員長の長谷川万吉先生を中心とした地球電気磁気学会誕生までの歴史について、様々な角度からの発展の流れの分析が示されました。50年の歴史を刻んだ本学会創設の背景とその後の展開の経緯についての3先生の講演を頂いたことについて、改めて感謝したいと思います。

本学会は、地磁気、空中電気、電離層、宇宙線を研究対象とした初期の段階から、1960年～70年代にかけて研究分野を拡げ、現在では、固体地球を対象とした電磁気学、電離圏・磁気圏物理学、太陽圏の物理学、さらに中間圏・成層圏を対象とした大気物理学等、必ずしもそれぞれが直接的な交流を持たない形で分化しています。80年代以後に入会された若い方々にとっては、なぜ古地磁気学のセッションや中層大気・成層圏を対象としたセッションが混在して設けられているのか、理解に苦しむところがあるかもしれません。しかしながら、学会活動の発展の経緯を見れば、現在に至る過程の必然性が理解できると思われれます。飛翔体の発達により、研究対象は電離圏から磁気圏・太陽圏へと拡がりました。逆に電離層を研究していた光化学研究グループは、下方の中間圏・成層圏へと研究対象を拡げ、MUレーダーのような新しい観測技術の導入によりさらにこの領域の研究が進展しています。

今回企画されたフォーラム「地球・惑星圏研究のフロンティアー21世紀のSGEPSS展望」では、飛翔体を用いた研究分野、固体地球を対象とした地球電磁気学及び中層・超高層大気及び惑星大気研究の3つに分けた形で、議論が行われました。この中で、現状では直接関わりのない分野の間で連携が始められつつあることを見ることが出来ます。

現在、2003年の打ち上げを目指し、月の探査計画が練られつつあります。この計画の主要な観測として、月の磁場のサーベイと電波高度計によるリートセンシングが検討されています。磁場観測では、「さきがけ」、「あけぼの」、「GEOTAIL」及び現在製作段階にある「Planet-B」搭載のために開発された技術が使われることになると思われれますが、こうしたプロジェクトを通じて分野間の交流がはかれることは、本学会の活動に新しいものをもたらすことが期待できます。また、プラズマサウンダー技術をもとにした、電波高度計観測では、月の表面の電磁的な特性を調べることが出来るため、この面でも新しい分野間の共同研究の進展が期待できます。このようなプロジェクトなどを通じ、本学会の新しい活動の芽が出来るのを期待したいと考えております。

この挨拶を終わるに当たり、この2年間いろいろな面でご助力をいただいた運営委員各位ならびに会員の皆様に感謝いたします。

### 第100回総会式次第

- |               |           |                 |
|---------------|-----------|-----------------|
| 1. 開会の辞       | (丸橋克英会員)  | 10. 議事          |
| 2. 総会議長指名     | (渋谷運営委員)  | 学会ロゴマークについて     |
| 3. 大会委員長挨拶    | (古濱大会委員長) | 名誉会員推薦について      |
| 4. 長谷川・永田賞授与  | (國分会長)    | 大林奨励賞内規の改定について  |
| 5. 大林奨励賞授与    | (國分会長)    | 合同欧文誌について       |
| 6. 大林奨励賞審査報告  | (國分会長)    | 次期開催地 (大志万運営委員) |
| 7. 会長挨拶       | (國分会長)    | 次々期開催地 (住友則彦会員) |
| 8. 運営委員会報告    | (湯元運営委員)  | 11. 謝辞 (松浦評議員)  |
| 9. JGG編集委員会報告 | (寺沢編集委員)  | 12. 閉会の辞        |



## 第187回運営委員会報告

日時:平成8年10月21日(月) 18時~21時40分  
場所:府中市民会館(ルミエール府中) 2階特別室  
出席者 國分会長、大志万、大村、小野、笹井、佐藤、渋谷、田中、早川、兵頭、三浦、森岡、山本、湯元、横山

### 1). 前回議事録承認

### 2). 諸報告

1. 第12回地球惑星科学関連学会連絡会が9月17日に開かれた。1998年3月に開催される東京大学での合同大会事務局から地球惑星科学関連学会の事務局に移行される。(連絡会幹事)

2. 第100記念大会のまとめと第19期学会役員立候補者の広報を第155号の会報に掲載するために、原稿締切日を11月9日(土)とする。(庶務)

3. 97年度合同学会は1997年3月25日(火)~28日(金)に名古屋大学東山キャンパスで開催される。合同学会の講演募集等の案内は連絡会ニュース(No.12)に掲載される。合同大会のプログラム編集は大志万・早川委員が担当する。(春期合同大会担当)

4. 次々期秋期学会については北海道大学から申し出があり、1997年10月2日(木)~5日(日)に開催する案を総会に諮る。(秋期大会担当)

5. JGG編集委員会が9月25日に開かれた。編集状況は問題なし。今期のJGG論文奨励賞の推薦は無い。JGG誌50巻号を記念した特集号を企画中である。(雑誌担当)

6. 運営委員会で選挙されたH9年度科研費審査委員候補者を地球電磁気学関連委員会に推薦した。(会長)

7. 大林奨励賞受賞者として藤本正樹・山本 衛・横山由紀子の3会員が7月5日の評議会で決定され、総会で表彰する。(会長)

8. 創立50周年記念事業として、学会初日にフォーラム「地球・惑星圏研究フロンティア」を企画、学会の基礎資料をWWWホームページやポスターに掲示し、学会のWWWホームページに掲示するロゴ(シンボルマーク)を募集した。また、永野 宏会員が準備中の著書「日本地球電磁気学会誕生までの歴史」を学会の出版物として企画する事を検討する。(WG)

9. 第154号会報に掲載されたように、第19期学会役員立候補者の締め切り日は10月末日で、

12月25日が投票締め切り日である。(会長)

10. 第17期日本学術会議会員の選出に係わる学術研究団体の登録申請を5月に行った。その結果、当学会は日本学術会議法に基づき登録され、関連研究連絡委員会は「地球物理学研連」、構成員数が727名であると認められた。また、当学会の地球物理学研連に係わる推薦人の数の配分は1人であり、会員候補者及び推薦人の届出に係わる依頼文書が平成9年1月上旬に発送される予定であるとの通知があった。(会長)

11. 平成8年8月19日付けの文部省学術国際局学術情報課庶務・学会係から問い合わせのあった、「学術定期刊行物の海外における評価」についての実態調査について回答した。(会長)

### 3). 審議事項

1. 以下の8名の新入会員を承認し、また、退会者の確認を行った。

・正会員の承認;

小川英夫(名古屋大学大学院理学研究科)

・正会員(学生)の承認;

中原耕作(名古屋大学大学院理学研究科)

三宅社聡(京都大学超高層電波研究センター)

松岡東香(日本大学大学院理工学研究科)

・外国会員の承認;

Tsunoda Roland T. (SRI International)

Gianibelli Julio C.

(Observatorio Astronomico De La Plata)

Heikkila Walter J.

(京都大学超高層電波研究センター)

・賛助会員の承認;

鈴之原善章(福井工業大学図書館)

2. 地球電磁気・地球惑星圏学会において永年にわたり学会の発展に御尽力してこられた、秋本俊一、柿沼隆清、加藤 進、上山 弘、乗富一雄、平尾邦雄、広野求和、前田 坦、米沢利之(五十音順)の9名の会員を名誉会員として推薦し、評議員会、総会に諮ることを決議した。

3. 当学会の地学教育・普及に関する取り組みについての報告を会報第153号に掲載するとともに、地学教育の現状を各会員に知らせるために、「初等・中等教育に於けるSGEPSS関連の教育の現状」というポスターを第100回記念大会で展

示すると三浦委員から報告があった。第6、7回の地学関連学会連絡協議会で審議された地学教育学会からのアンケートに対して当学会の会員20名程が回答する事を了承した。また、地学教育・普及に今後重点を置く必要があることから、学会WWWホームページの内容の充実をはかり、学会の情報公開を前向きに検討することになり、次期運営委員会に引き継ぐことを了承した。

4. 地球環境科学関連学会協議会(仮称)設立のための検討委員会が7月19日に開催されたが、設置に関する具体案の検討・提案についての報告が佐藤委員からなされた。協議会は参加学会の学会活動に関する情報交換の場であり、事務局運営経費については参加学会の分担を特に予定しないことが確認された。当学会としては地球惑星科学関連学会連絡会とも競合しないことから、今後も協議会に運営委員を参加させることとした。
5. 研究助成・集会助成等として、山田科学振興財団から1997年度研究援助候補推薦の依頼があったので、会報に掲載し、会員に周知する。
6. 合同誌に向けての作業委員会から、合同誌の財政基盤は科学研究費補助金の「超高層」分野に申請されているJGG誌を発展・拡充する方法しかないことや他学会の動きについての報告がなされた。他学会の合意が得られれば、JGG誌の名前、編集、表紙、版型の変更をする形で、科研費補助金の申請を当学会から申請すること、また、具体的な合

同誌名の提案も評議員会、総会に諮ることが決議された。

7. 大林奨励賞内規の見直しについて森岡作業委員長から提案され、総会に諮ることになった。また、大林奨励賞や長谷川・永田賞の基金のための募金活動については銀行振り込みの方法で来年1月末日まで募り、次期総会で決算を報告する案を承認した。募金の趣意書については評議員会で審議してもらい、募金活動については総会で理解してもらおうことになった。
8. 第100回大会の記念事業である学会ロゴマーク募集について、応募5件について審査した結果、渡辺 修会員の図案を第1候補として総会に諮り、副賞として2万円を付けることを了承した。
9. 第100回総会の式次第について審議した。
10. その他、千葉大学工学部の教官公募についての会報号外と海洋調査技術学会からの研究成果発表会への協賛について、追加承認した。
11. 学会期間中の報道機関への広報活動について見直しが必要との担当委員から提案があったが、積極的に情報公開するという観点から、今まで通り継続していくことになった。
12. 次期運営委員会との引継を兼ねた次回運営委員会

日時:平成9年2月7日(金)13:00~  
場所:極地研究所 研究棟2階 会議室

## フォーラム 地球・惑星圏研究のフロンティアー 21世紀のSGEPSS 展望 ホームページ上討論について。

学会創立50周年の記念事業の一環として標記フォーラムが第100回講演会の初日に開催されました。若手の会員から19の講演発表があり、活発な議論がありました。しかし、時間切れのため第3部「総合討論」は割愛せざるを得ませんでした。そ

こで学会のホームページ上で第3部「総合討論」を開きたいと思います。多数の方からの活発な討論をお願いいたします。

ホームページでの討論参加の仕方は次の通りです。

討論の場 : <a href="http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss">http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss</a> の「フォーラム」で見ることができます。 (フォーラムのための掲示板「フォーラム」をホームページ上に新たにもうけました。)
意見の投稿 : <a href="mailto:sgepssfrm@kurasc.kyoto-u.ac.jp">sgepssfrm@kurasc.kyoto-u.ac.jp</a> 宛電子メールを送ってください。自動的にホームページに掲載されます。

なお投稿の際には必ずSubject欄にタイトルを英文で記入して下さい。(記入の無いメールは記載されませんのでご注意ください。)

なお、ホームページのフォーラムに投稿される記事を電子メールで受信することも出来ます。詳しくはホームページをご覧ください。

# 大林奨励賞審査報告

会長 國分 征

大林奨励賞候補者作業委員会（委員長：森岡昭運営委員）からの候補者推薦を受け、平成8年7月5日に開催された評議員会において、下記の受賞者が決定されました。

1. 藤本正樹 会員 「磁気圏境界面速度勾配層における不安定性の研究」
2. 山本 衛 会員 「中緯度電離圏E領域沿磁力線イレギュラリティの研究」
3. 横山由紀子会員 「数十年スケールの地磁気変動の研究」

1. 藤本会員の研究は、太陽風・磁気圏相互作用の基本的な過程の一つであるケルビン-ヘルムホルツ（K-H）不安定性を理論的に考察したものである。これまで速度勾配層のK-H不安定性については多くの研究がなされてきたが、同会員は一連の研究の中で、磁気圏境界層の厚さがイオン慣性長程度の空間スケールであることを考慮し、新しい角度からの詳細な考察を行った。

- 1) 二流体方程式系を用いた不安定の線型解析
- 2) イオンの有限旋回半径効果を取り入れた数値シミュレーション
- 3) 非対称な垂直磁場配位を持つ場合への2)の拡張

このような研究により、K-H不安定がカスプ領域におけるイオンの散乱に寄与し得ること、有限旋回半径効果によって広い範囲にわたって効率よく粒子混合が起こること、非対称の場合は対称の場合に比べ粒子混合が押さえられること、磁気流体的（MHD）近似には現れないホール効果の重要性を明確にしたこと等、MHD理論の破れがどのように起こるかという理論的な問題とともに磁気圏境界面の理解をさらに前進させた。

2. 山本会員の研究は、京都大学超高層電波研究センターに設置されているMUレーダーを用いた観測により、中緯度電離圏E領域の沿磁力線イレギュラリティ（FAI：Field-Aligned Irregularity）の特性を明らかにし、観測されたFAIの基本的性質から、FAIは、イオン密度勾配ドリフト不安定に起因することを明らかにしたものである。これまで電離圏FAIの研究は、強い電流系が存在する磁気赤道領域やオーロラ帯を対象として行われていたが、中緯

度は「静かな」領域と見なされていたため十分な研究が行われていなかった。同会員の一連の研究により、中緯度電離圏FAIの時間的・空間的にダイナミックな様相が初めて明らかにされた。FAIの活動度は、夏季に最大、冬季に最小となり、おおよそE領域の日没後から夜半にかけてピークを迎え、高度100km以上に準周期エコーが現れること、日出後の第2のピークには高度90~100kmの領域に連続的なエコーが現れることが明らかにされている。また、準周期エコーのほとんどは、西向き之位相伝播特性を示し、これらは、中層大気中の重力波によるスボラディクE層の空間変動によるとするモデルで説明できることが示されている。

3. 横山会員の研究は、地球核内部の流動性を最も端的に示すと考えられている数10年周期の地磁気永年変化の特徴を明らかにしたものである。同会員は、球関数展開係数の永年変化という形で、変動磁場の空間分布を考慮に入れた周波数解析により、周期60年の変動が地球内部に起因する最も顕著な変動であることを見出した。これに続く研究では、この地磁気60年変動と地球回転変動との関連に着目し、日長（length-of-day:LOD）にも60年周期変動が顕著に見られることを明らかにした。さらに、LODと地軸双極子項との間には約240度の位相差があり、高次項になるに従って位相差が小さくなる傾向を見出した。これを説明するために、核-マントルの電磁的相互作用によって核内部の電磁流体振動とマントルの自転変動が励起されるというモデルを提唱した。電磁流体振動は、核・マントル境界の薄い層の中で電磁力とコリオリ力と相互作用によって発生し、その物性及び形状等によって決まる固有振動として60年周期が生じると考えた。このモデルは、核表面で赤道から極へ、極から赤道への子午面内での電磁流体振動を取り入れたのが特徴であり、これまで多くの研究者が取り組み未解決のまま残っていた問題に新たな視点を与えた。

以上、藤本、山本及び横山会員は、本学会若手会員の中で、地球電磁気学、超高層物理学、及び地球惑星圏科学において、独創的な成果を挙げ、さらに将来における研究の発展が十分に期待できると評価され、受賞が決定されました。



## 大林奨励賞内規の改定

平成6年10月に制定された大林奨励賞の内規について、運営委員会から一部の字句の修正をする改訂案が第100回総会において提出され、可決されました。改訂された後の内規は以下の通りです。

大林奨励賞内規

平成6年10月20日制定

平成8年10月23日改正

第1条 本学会に大林奨励賞を設け、以下(1)(2)項に相当する会員を表彰し、その研究を奨励する。

- (1) 本学会若手会員の中、地球電磁気学、超高層物理学、及び地球惑星圏科学において、独創的な成果を出し、さらに将来における発展が充分期待できる研究を推進している者。
- (2) この場合、若手会員とは当該年度初めに、原則として35才以下の会員をいう。

第2条 受賞者は、次の各項の手続を経て決定する。

- (1) 受賞候補者は、本学会運営委員会の中に設けられる大林奨励賞候補者推薦作業委員会(以下作業委員会という)が会長に推薦する。作業委員会は候補者を会長へ推薦するに際して、作業委員会独自の調査と平行し、広く会員から候補者の推薦を受けるものとする。
- (2) 作業委員会は、各期の運営委員会ごとに設置され、その構成は各期の運営委員会の議により決定される。
- (3) 会長は推薦を受けた候補者につき、評議員会にはかる。評議員会は議決により受賞者を決定する。

第3条 大林奨励賞は賞状およびメダルとし、総会においてこれを授与する。

平成8年度

### 大林奨励賞の候補者推薦のお願い

大林奨励賞候補者推薦作業委員会

平成8年度大林奨励賞につきまして、下記により会員からの候補者推薦をお願いいたします。

記

1. 候補者の対象: 大林奨励賞内規第1条に該当する本学会会員
2. 推薦者: 本学会会員(及び大林奨励賞候補者推薦作業委員会委員)
3. 推薦締切期日: 平成9年1月10日(金)必着
4. 推薦手続き: 以下の(1)から(8)の項目を記載した推薦書を1部送付(郵送)して下さい。
  - (1) 推薦者氏名(自署・印)
  - (2) 候補者氏名, 生年月日
  - (3) 候補者所属機関・部局・職
  - (4) 学位論文名
  - (5) 学位取得年
  - (6) 審査対象論文名(3編以内, コピー各1部添付)
  - (7) 審査対象論文に対する評価(それぞれの論文について400字以内)
  - (8) 候補者の研究が学会、研究分野に果たす貢献、及び候補者の研究の将来性(400字以内)
5. 推薦書送付先:

森岡 昭 仙台市青葉区荒巻字青葉  
東北大学理学部超高層物理学研究施設

e-mail morioka@stpp.geophys.tohoku.ac.jp

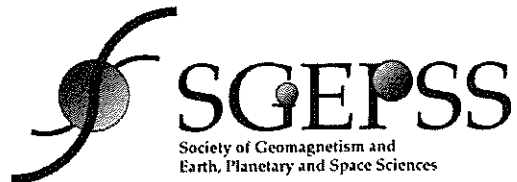
TEL 022-217-6735 (直通) FAX 022-217-6406

### SGEPSS ロゴ図案の応募作品と 審査結果

学会創立50周年記念事業の一つとして、本学会のロゴ(シンボルマーク)の図案を募集しましたところ、5つの作品の応募がありました。

応募作品は順次、本学会のホームページ(<http://www.kurasc.kyoto-u.ac.jp/sgepss/logo/catalog.html>)に掲載し、広く会員から意見を求めました。会員から寄せられた意見を参考にして、運営委員会で審査した結果、次の作品が選ばれました。

第100回総会では、運営委員会から推薦されたこの作品を、本学会のホームページを飾るデザインとして使用することが賛成多数で承認されました。



渡辺 修(watanabe@geo.kyushu-u.ac.jp) 作

## 長谷川・永田賞を受賞して

大阪工業大学情報科学部 木村 磐根

この度学会創立50周年、第100回という記念すべき総会において長谷川・永田賞を戴いたことは大変光栄に存じます。外にもこの賞を受けられるにふさわしい方が幾人もおられますのに、私はその第1号を戴くことになりましたのは誠に僥倖なことと思っております。

今回総会が通信総合研究所で行われましたが、この研究所が電離層を一つの大きな研究対象としてこられた電波研究所であったことは、この学会の50周年、第100回を記念する総会の場所として大変意義深いことですが、私の個人的なことを申し上げますと、昭和29年の夏休み2ヶ月間、大学4年生の学外実習として、この電波研究所にお世話になり、中田美明さんのご指導を受け複数の受信周波数で電離層見かけ高さを連続観測するというプロジェクトのお手伝いを致しました。それゆえこの研究所が本当に懐かしく、その場所で受賞できたことは感動を倍加しております。

長谷川・永田賞の両先生と私との関わりについて少し触れさせていただきますと、昭和30～31年京都大学大学院修士課程学生の頃、指導教官の前田憲一先生のご指示により理学部地球物理教室長谷川研究室に出入りさせて頂き、研究室の方々からご指導を受けることが出来ました。研究を始めたばかりの若輩学生の私でありましたが、老長谷川大先生にも親しくお声をかけて頂き、また講義も聞かせて戴きました。先生はそれから間もなく京大をご退官になり、徳島大学学長、福井大学学長を歴任されましたが、当学会の初代委員長（現在は会長）としていつも本学会総会・講演会にはご出席になりました。また永田武先生は前田憲一先生とともに宇宙開発、極域研究で日本をリードしてこられましたので、私も強く両先生のご薫陶を受けて参りました。また永田先生は京都にもよくおいでになり、お酒の席にご一緒させて頂く機会も多くありました。学問的には厳



しい先生ですが、前田先生の門下生という理由から大変寛大に扱って頂いたように感じられます。

また私が田中館賞を受賞したのは昭和36年秋の福井大学での学会でしたが、大会委員長は同大学の学長をしておられた長谷川万吉先生であり、本学会の委員長はその年から第2代目として就任された永田武先生でありました。したがって長谷川先生の前で永田先生から直接賞を頂いたこととなります。いま長谷川・永田賞を戴いてそのことを思い出し、感慨を深くしております。

この受賞は直接ご指導戴いた前田憲一先生、大林辰蔵先生を初めとして、この学会の諸先輩、同輩の方々のご鞭撻のお蔭であります。また、研究室のスタッフや、学生諸君のご協力に負うところが大きいと感謝しております。また、昭和63年から2年間この学会の会長を務めさせて頂きましたが、会長任務をサポートして頂いた評議員、運営委員などの役員の方々に厚く感謝の意を表したいと思えます。

## 国際学術交流事業補助金受領者の報告

小田啓邦（地質調査所海洋地質部：科学技術特別研究員）

このたび国際交流事業の補助金によって、平成8年7月22日から27日にかけてオーストラリアのBrisbaneで行われた1996 WPGM (Western Pacific Geophysics Meeting)に参加させて頂きました。今回のWPGMはSEDI (Study of the Earth's Deep Interiors) 5th Interna-

tional Symposiumとジョイントしており、地球磁場逆転の研究を進めている私としては、ぜひとも参加したい学会でした。

学会はBrisbaneの市内を蛇行して流れるBrisbane川沿いにあるBrisbane Convention Centerで行われました。

Convention Centerは非常に大きく、全面ガラス張りの正面玄関から入ると3階まで吹き抜けのホールになっており、セッションはこの2階と3階の各部屋に分かれて行われました。Convention Centerの属するSouth Bank Parklandは市民の憩いの場になっており、レストラン、アイススケートリンク、博物館、美術館等が有機的につながっており、散歩をしていても気持ちのいいものでした。また、夜になると橋や川縁がライトアップされて、観光船が通過したりするのを川沿いのレストランから眺めるのは素晴らしいものでした。

今回、私は『地磁気ダイナモに与えるマントルの影響』というセッションで『セレベス海・スル海(ODP Leg 124)から得られたブルネ／松山境界の地球磁場のふるまい』というタイトルでポスター発表を行いました。ODP Leg 124の古地磁気データについて今まで解析を行ってきましたが、今回は3つの掘削孔から得られたブルネ／松山境界の地球磁場逆転記録からコンボジットカーブの生成を試み、酸素同位体比と帯磁率の対比による年代軸を入れました。最も注目すべき特徴は、逆転の400年前と800年後にそれぞれ短いエクスカージョンがあることと、逆転の前後に相対磁場強度が安定磁極期よりも弱く見かけの古地磁気極の緯度が60度前後の準安定状態がそれぞれ1000年と3000年程度の間続くことです。時間軸にわずかのずれはあります

が、北大西洋のHole 609Bから得られたブルネ／松山境界の記録(Clement&Kent, 1986)にも同様の特徴が見られます。

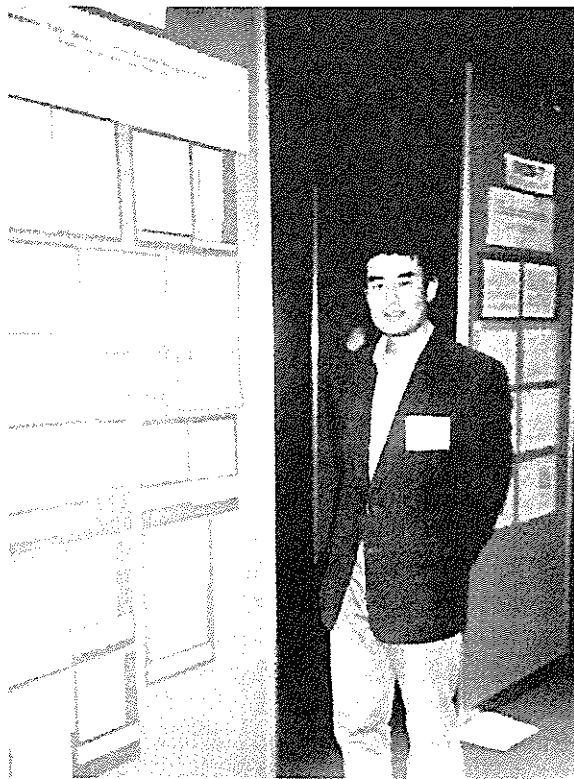
地球磁場逆転時における地球磁場変動のタイムスケールにはダイナモ問題を扱っている研究者も興味をもっているらしく、極性逆転をする地磁気ダイナモのシミュレーションに成功したGlatzmeier博士達もポスターを見に来られました。その他、ニュージーランドでブルネ／松山境界の研究をされたことのあるTurner博士は逆転前後の特徴に興味をもたれて、ニュージーランドのデータをもう一度見直してみたいとの考えを示されました。過去数百万年の火山岩と堆積岩の地磁気永年変化データをまとめられたConstable博士も、逆転前後の準安定状態に

は興味を持っておられるようでした。

本学会で一番興味を引かれた発表は、ダイナモのセッションでGlatzmeier博士が示した地球磁場逆転のシミュレーション結果のビデオでした。コンピューターグラフィックで描かれた磁力線の中を通り抜ける様は、ダイナモ理論に詳しくない私にも実感の湧くものでした。なかでも、内核内部のきれいに並んだ磁力線が印象的でした。彼は、地球の内核に関する予想なるものもリストにして示しましたが、内核の地磁気ダイナモに果たす役割が重要であると認識しているようです。これに関連しますが、Song博士達は地震波を用いた研究によって、内核がマントルに

対して1年に1度の割合で回転を行っているという発表を行いました(これは最近Natureに発表されました)。

その他にも、擬似単磁区粒子の残留磁化／岩石磁気パラメータからみた氷期・間氷期サイクルの記録／岩石磁気学とその応用などのセッションで興味深い発表をいくつか聞くことができました。これらを聞いて思ったことは、堆積残留磁化から地球磁場を復元すること、岩石磁気パラメータから気候変動を捉えること、共に様々な



要因があって非常に難しいということでした。今回の自分の発表では堆積物による様々な影響を十分に考慮することができませんでしたが、さらに考察を進めてより精密な地球磁場変動の復元を試みたいと思っています。

WPGMといえば、1990年に金沢で行われた第1回のミーティングで、国際学会で初めての研究発表を行ったことを思い起こします。自分としては、今回のBrisbaneでの発表は金沢から始まった一連の研究の1つの節目だったような気がしています。このような貴重な機会を与えて下さった方々に感謝をすると同時に、今後も多くの若手研究者の人々が本事業によって有意義な時間をもたれることを期待いたします。

## 学校科目「地学」関連学会連絡協議会報告と SGEPSSでの取り組みについて

前回に引き続いてSGEPSSを含む3つの学会の地学教育と普及に関する取り組みについての報告がなされた。

地学団体研究会は、地球科学の研究者や愛好者によって1947年に創設され現在の会員数は2700人程である。発足当時は教育や大学院生が中心で研究活動が中心であった。現在の会員は、小・中・高教員の占める割合が高く“教師グループ”として活動し、教育と研究の統一を進めていこうとしている。発足当時から地質学会との関連が強く、会員は半分以上ダブっている。団体研究の成果を一般市民に普及させるため多くの普及書等の出版物を出したり、シンポジウムを開いている。

火山学会は地質学会の中の火山関係の人が集まって1932年に発足した。戦後、活火山研究会、火山物理研究会となり、1956年に日本火山学会として再組織された。1966年には会員数は390人程であったが、1996年には1200人程となり会員数は順調に増えている。会員数が順調に増えているのは、火山等の自然現象がマスコミや一般の人の関心の的になってきているためと、防災関係の人が学会に入り始めているためである。会員のほとんどは他の学会とダブって会員になっている。1993年に評議委員会で一般社会人や青少年を対象として普及・啓蒙活動を積極的に行うことが推奨されたが、この時には中学・高校等での教育（初等・中等教育）の問題はあまり議論されず、むしろ大学に於ける教育（高等教育）の問題が議論された。最近では啓蒙活動としてフォーラムや市民講座、公開講座を開いている。啓蒙活動を始めてから、また特に最近ホームページ（海外向けにも）を開いてから学会に対する問い合わせが増えている。生活のベースにある自然を中心にして、自然の物の見方や基本的知識を養うことを目的として啓蒙活動を行っている。教科書に詳しい記述がなくても、例えば小学校の生活科等でどんな教員でも教えられるようにすることが啓蒙活動の目標である。

SGEPSSでは、普及書の出版や公開講座等の啓蒙・普及活動は行っていないが広報活動として各総会・講演会の前に報道機関に総会・講演会の案内状を送っていることが報告された。また中・高校で使われている教科書の中のSGEPSS関連の事項の記述に関する調査の内容も報告された。最も詳しくSGEPSS関連の事項を載せている教科書の内容につ

いては、出席している高校の先生から、あまりにも専門的過ぎる事項の記述もあるという感想が述べられたが、比較的記述の少ない教科書の内容については、それ位のSGEPSS関連の記述であれば既に昭和30年代後半の教科書に載っていたという指摘もあった。高校等の教科書の中の記述が豊富になって、学会にとって好ましくなったことが必ずしも初等・中等教育の改善を意味せず、地学教育の目的をはっきり知っておくことが必要であるとの意見が出された。また今後は、週5日制の実施等のため教科書の内容はますます厳選される方向にあり、特定の学会だけでなく地学全体が良くなるように教科書の内容を改善していく必要があるとの意見が出された。

SGEPSS運営委員会に於いても、教育と普及・広報の問題が議論された。SGEPSSのホームページも充実しつつあり（大村運営委員の御努力による）、火山学会の報告にもあるように、今後ホームページが教育と普及に役に立つという意見が出された。この件に関しては、他の幾つかの地学関係の学会のやっているようにホームページを民間の検索エンジンに繋げる案や、現在、一運営委員のボランティアの努力に頼っているホームページの運営・維持が今後、大変になってくることをふまえて、ホームページの運営・維持を民間業者に委託する等の案が提案されたが、今後の議論の課題として次期の運営委員会に持ち越すことになった。また、SGEPSSのホームページについてはその公開以後、特に検索エンジンに繋げていない状態でも、かなり多くのアクセスが学会会員以外からもあることが報告された。

（広報担当運営委員）

### 国際交流事業募集

当学会では国際交流事業として、●地球電磁気・地球惑星圏学会講演会への海外参加候補者、●国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集をおこなっています。応募には、所定の申請書類（学会事務センター備付）を本学会運営委員会に提出して下さい。補助金受領者の選考・義務等については学会基金による国際学術交流事業運用規定（会報132号参照）をご参照下さい。

## 人事公募

### ●神戸大学理学部地球惑星科学科

1. 職名・人員：助手 1名
2. 所属：地球科学大講座
3. 専門分野／内容：地球ダイナミクス・地球テクトニクス／主として固体地球物理学的手法により、地震・火山活動を含む地球表層の変動現象や、深部を含む全地球規模の変動現象を研究する。
4. 応募条件：
  - (1) 着任時に博士の学位を有する方
  - (2) 地震や地殻変動の観測にも意欲的な方
5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
6. 提出書類：○履歴書○研究業績目録（査読のある原著論文、査読のない原著論文、総説、著書に区分）○これまでの研究経過と今後の教育・研究計画および抱負（2000字程度）○応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先○主要論文の別刷またはコピー（5編以内）
7. 公募締切：平成8年12月26日（必着）
8. その他：着任後は地震学教育研究分野に属し、他分野のスタッフとも協力して広い視野から教育・研究・学科運営にあたっていただきます。
9. 書類提出先・問い合わせ先：

〒657 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学理学部地球惑星科学科  
学科長 乙藤洋一郎

TEL: 078-803-0564 FAX: 078-803-0490

E-mail: otofuji@icluna.kobe-u.ac.jp

封筒には「助手応募書類」と朱書きし、簡易書留で郵送してください。

### ●北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

1. 職種・人員：  
地球惑星流体科学講座 助教授 1名
2. 専攻分野：地球惑星流体物理学およびその関連分野。
3. 着任予定時期：平成9年4月1日以降
4. 応募書類：○履歴書○いままでの研究概要（2,000字以内、研究業績との関連をわかりやすく）○研究業績目録（原著論文・著書・総説と報告書等に分けて記載すること。）○主な原著論文別刷 5篇（複写可）○今後の教育・研究の計画・抱負（2,000字以内）○いままでに修士または博士論文の主査または副査を行ったことがある場合、その件数。（審査年、主査・副査の別、博士・修士の別）

5. 応募締め切り：平成9年1月6日（月）（必着）  
封筒の表に「教官公募関係」と朱書きし、書留にて郵送すること。

6. 書類の送付及び問い合わせ先：

〒060 札幌市北区北10条西8丁目  
北海道大学大学院理学研究科

地球物理学教室主任 金成 誠一

電話：011-706-3564

ファックス：011-706-4907

### ●九州大学理学部地球惑星科学科

1. 職種人員：助教授・1名
2. 専門分野：地球の内部ダイナミクス・テクトニクス・内部構造の研究（手段は特に問わず理論、数値シミュレーション、データ解析、観測のどの分野でもかまいません）。
3. 着任時期：決定後なるべく早い時期
4. 提出書類：○履歴書○これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）○研究業績リスト（原著論文、総説、報告書、著書に区分）○主要論文の別刷3編○着任後の研究・教育の抱負（A4用紙2枚以内）○意見を聞ける人2名（応募者との関係）
5. 応募締切：平成9年1月10日（金）
6. 書類送付先および問い合わせ先：

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1

九州大学理学部 地球惑星科学科  
地殻構造科学講座所属助教授候補者選考委員会

委員長 中田正夫

電話 092-642-2515（ダイヤルイン）

ファックス 092-642-2684

E-mail: mnakada@planet.geo.kyushu-u.ac.jp

7. 書類はA4を使用し、封筒に「応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと

### ●京都大学防災研究所地震予知研究センター

1. 公募人員：助手 1名
2. 所属：地震予知研究センター
3. 研究内容：地震、測地・地殻変動、地球電磁気または地球化学等の観測およびデータの解析を通し、地殻・マントルに発生する地震の準備過程や発生機構の研究を行うとともに、地震予知の技法開発も行う。
4. 任用時期：決定後できるだけ早い時期
5. 応募資格：年齢35歳以下で、博士の学位を有する者または着任時に博士の学位取得が確定している者（平成9年3月博士課程修了見込みの者を含む）、国籍は問わない。
6. 提出書類○履歴書○業績リスト及び主要論文別



刷(5編以内)○これまでの研究概要と研究計画書(日本語2000字以内、または英語1000語程度)  
○応募者に関する所見を伺える方1~2名の氏名と連絡先

7. 書類はA4を使用し、封筒に「応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送のこと
8. 公募締切:平成8(1996)年11月30日(必着)
9. 書類提出先:

〒611 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所  
地震予知研究センター 住友則彦 宛  
(封筒の表に「教官応募書類在中」と朱書し、  
郵便の場合は書留にすること)

10. 問い合わせ先:下記連絡先と同じ  
附記

- 1) 地震予知研究センターには「地震発生機構」、「地震テクトニクス」、「地震活動」、「地殻変動」、「地震予知計測」、「地震予知情報」、「地球内部(客員)」の計7研究領域と「総合処理解析」、「リアルタイム地殻活動解析」及び8観測所があり、相互に連携を保って運営が行われています。
- 2) 採用後は上記いずれかの研究領域に所属していただきます。
- 3) 防災研究所は、本年度より共同利用研究所に改組されたので、共同研究を推進するための役割も果たしていただきます。
- 4) 現在、日本語が堪能でない方でも応募できますが、採用された後は日本語を用いて研究・教育に当たるよう努めていただきます。

連絡先: 住友則彦 Norihiko SUMITOMO

611 京都府宇治市五ヶ庄、京都大学防災研究所 地震予知研究センター  
Research Center for Earthquake Prediction  
Disaster Prevention Research Institute  
Kyoto University, Uji, Kyoto 611, JAPAN  
TEL 0774-32-0582 FAX 0774-33-0726  
e-mail: sumitomo@rcep.dpri.kyoto-u.ac.jp

#### ●名古屋大学太陽地球環境研究所COE研究員

1. 分野:太陽地球系科学
2. 人数:1~2名
3. 任期:1年(審査の上、1年更新可能)
4. 身分・待遇:一般職の非常勤職員(講師)月額約30万円(経歴等により若干の増減あり)
5. 着任時期:決定後できるだけ早い時期
6. 応募資格:

次のすべての条件を満たしている者。

- (1) 採用日現在で年齢35歳未満。

(2) 博士の学位を有しているか、又は学位取得が確実であること。

(3) 着任予定時に主たる職、或いは大学院生、研究生等の身分を有しないこと。

7. 応募締切:平成8年12月20日(金)必着
8. 提出書類:封筒の表に「COE研究員応募書類在中」と朱書し、以下の書類を書留でご提出下さい。

○履歴書○研究歴○研究計画○論文リスト及び主要論文別刷り各1部(3編以内)○着任可能時期○自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先を記した書面、他薦の場合は2人の方からの推薦書(健康に関する所見も含む。)

9. 送付先:〒442 愛知県豊川市穂ノ原3-1-3  
名古屋大学太陽地球環境研究所長  
園分 征あて
10. 問い合わせ先:同上(直通電話05338-9-5182)

## 研究助成金案内

### ●山田科学振興財団(1997年度)

〆切1997年3月31日

自然科学の基礎的研究に対して補助、実用指向研究は対象外。援助額は1件あたり100万から500万円、総額4,000万円、援助総件数は10件程度。学会からの推薦及び財団関係者からの個人推薦の中から選考。使途は給与以外は自由。使用機関は2年間。推薦枠2件以内。

連絡先

財団法人山田科学振興財団

〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号  
06-757-3311(代表)

推薦は総務までご相談ください。

### ●平成9年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」及び「研究成果公开发表(C)」の募集について。

1. 計画調書の提出期限:  
平成8年12月9日(月)~12月13日(金)
2. 提出先:文部省学術国際局学術情報課
3. この公募に対する問い合わせについては、学会の事務局(会長、総務)を通じて、下記宛に照会して下さい。

文部省学術国際局学術情報課学術資料係  
千代田区霞が関3-2-2

電話03-3581-4211 内線2591

# SGEPSS Calendar

- 1996年
- 12月3日～4日 International Symposium on Environmental Research in the Antarctic  
於 国立極地研究所講堂
- 12月15日～19日 AGU Fall Meeting in San Francisco, USA
- 12月26日～27日 ネットワークMT研究会 於 京大防災研
- 1997年
- 1月7日 地球惑星科学関連学会合同大会 アブストラクトメ切
- 2月4日 地震・火山噴火の先行現象としての電磁界変動ワークショップ 於 東大地震研
- 2月5日 ネットワークMT解析検討会 於 東大地震研
- 2月6日 南九州の構造と地震・火山テクトニクス 於 東大地震研  
(上記の3つの研究集会は従来のCA研究会に対応)
- 2月28日 IAGA 1996 アブストラクトメ切
- 3月3日～5日 International Workshop on Seismo Electromagnetics of the Earthquake  
Remote Sensing Frontier Research 於 NASDA 東京・六本木
- 3月13日～19日 国際シンポジウム: 第5回宇宙空間シミュレーション学校  
(5th International School/Symposium for Space Simulations: ISSS-5)  
於 京都大学宇治キャンパス
- 3月17日～21日 Magnetospheres of the Outer Planets at University of Colorado, Boulder, USA
- 3月25日～28日 地球惑星科学関連学会合同大会 於 名古屋大学 (旧教養部)
- 4月21日～25日 European Geophysical Society XXII General Assembly in Vienna, Austria
- 5月12日～15日 1997 SuperDARN Workshop at University of Natal, South Africa
- 5月27日～30日 AGU Spring meeting in Baltimore, USA
- 6月17日～22日 Chapman Conference on The History and Dynamics of Global Plate Motions  
at Marconi Conference Center, California, USA
- 6月23日～27日 8th EISCAT International Workshop in Leicester, UK
- 8月4日～15日 8th Scientific Assembly of IAGA, 9th Solar Terrestrial Physics Symposium,  
International Commission on the Middle Atmosphere in Uppsala, Sweden
- 8月18日～22日 Solar Activity Effect on the Middle Atmosphere at Charles University, Prague, Czech
- 10月2日～5日 地球電磁気・地球惑星圏学会第102回総会・講演会 於 北海道大学

SGEPSSカレンダーは会員からのお知らせで成り立っております。国内外の学会、研究会、委員会、予稿締切等、皆様に広めるべきことがございましたら会報担当までお知らせください。

地球電磁気・地球惑星圏学会

会長 國分 征

〒442 豊川市穂ノ原3-13 名古屋大学太陽地球環境研究所 phone:05338-9-5182 fax:4-8806

総務 湯元清文 phone:092-642-2685 fax 642-2673 email:yumoto@geo.kyushu-u.ac.jp

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学科

会報担当庶務 渋谷秀敏 phone:096-342-3417 fax 342-3411 e-mail:shibuya@sci.kumamoto-u.ac.jp

〒860 熊本市黒髪2丁目39-1 熊本大学理学部地球科学科

運営委員会 〒113 東京都文京区本駒込5丁目16番9号学会センターC21(財)日本学会事務センター気付

03-5814-5810 会員業務 (入退会、住所変更等、会費、会誌)

03-5814-5801 学会業務 (庶務、窓口、渉外)

03-5814-5820 ファクシミリ

入会申し込みは運営委員会宛、研究助成金案内は総務宛、会報への投稿は担当庶務宛ご連絡ください。

会報へのご提案、ご意見、情報提供、寄稿をお待ちしています。

## 第101回総会並びに講演会開催のお知らせ(第8回地球惑星科学関連合同大会)

固有セッションについて

共通セッション・シンポジウムについては、連絡会ニュース参照。

第101回総会並びに講演会は第7回地球惑星科学関連合同学会として下記の通り開催されます。

○期間: 1997年3月25日(火)~28日(金)

○会場: 名古屋大学東山キャンパス

○SGEPSS固有セッション講演申込および予稿原稿送り先:

★地球内部および月・固体惑星関係

〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学防災研究所 地震予知研究センター  
大志万直人宛

★太陽・惑星間空間、地球・惑星電磁気圏および地球・惑星大気関係

〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1

宇宙科学研究所 太陽系プラズマ研究系  
早川基宛

○講演申込は1月7日(火)締め切りです。締め切り日以降に到着した申し込み、電話やFAXによる申し込み遅延依頼は、受け付けることができません。

○総会議題の申込は、2月末日迄に会長宛書面でお願います。

○講演申込用紙及び予稿原稿フォーマットは、会報に同封されています連絡会ニュースに記載の統一フォーマットをコピーしてお使い下さい。尚、申込用紙には、必ず以下の固有セッションの小区分記号を記入して下さい。

A 地球内部: 1. 主磁場 2. 電気伝導度 3. 地殻活動電磁気学 4. 磁気異常 5. 岩石磁気 6. 古地磁気 7. その他

B 固体惑星: 1. 太陽系 2. 月・隕石 3. 比較惑星 4. その他

C 太陽・惑星間空間: 1. 太陽・太陽大気 2. 太陽磁気圏構造 3. 惑星間空間擾乱 4. 宇宙線 5. 太陽風・磁気圏相互作用 6. その他

D 地球・惑星電磁気圏: 1. 磁気圏構造 2. 電離圏構造 3. 磁気圏電離圏結合 4. オーロラダイナミクス 5. 磁気圏プラズマ波動 6. ULF波動 7. 惑星電磁気圏 8. その他

E 地球・惑星大気圏: 1. 大気圏力学 2. 大気圏化学 3. 大気圏放射 4. 惑星大気 5. その他

○申込用紙、予稿原稿ともにコピーを同封して下さい。コピーを同封していないものは受け付けません。

○(a)講演申込用紙の氏名、所属はプログラム編集・印

刷の都合上、日本語表記が可能な場合は必ず日本語でお願い致します。(b)講演題目は、予稿と同じ言語でお願いします。(c)外国人の氏名はアルファベット表記でも差し支えありませんが、所属はできるだけ日本語で表示して下さい。(d)日本人著者名の場合は、漢字とアルファベットの両方の欄に記入されていること。(e)英語講演題目は、文頭、固有名詞、略号以外は小文字とすること。

○予稿原稿は、合同学会用の規定の枠(A4)にあうようにできるだけワープロを使用して下さい。印刷後のスペースはA5横相当/縮小率70%になりますので、原稿は大きめにお書き下さい。

○非会員のみによる講演申込は受け付けません。筆頭著者としての講演申込は今回の合同大会に限り一人2件まで受け付けます。ただし、口頭発表は1件までに限ります。

○口頭発表の時間は15分(講演12分、質疑3分)です。

○発表方法: ポスター発表・口頭発表の区分は御希望にできるだけ従いますが、プログラム構成の都合上、御希望の区分以外での発表をお願いすることがありますので、御協力下さるようお願い致します。

○講演・ポスター発表の際にビデオ(VHS)、パソコンもしくは映写機(8mm)を使われる方は、その旨、プログラム申込用紙にご記入下さい。

○会費等は以下の通りです。

参加費	一般 1,500円	(非会員2,000円)
	学生 1,000円	
予稿集	4,500円	(前納3,500円)
郵送	5,500円	(前納5,000円)
懇親会	一般 6,000円	(前納5,000円)
	学生 3,500円	(前納3,000円)

なお前納締切は平成9年3月11日です。

### !! 予稿はA4横!!

え? もう、常識?

予稿フォーマット講演申込用紙  
などは連絡会ニュース参照